

Smart-in・企業サーバ間

インタフェース仕様書

【別冊】 プレコール・オート (PreCallAuto)

2020/1/5

第 1.4 版

株式会社あいびし

改定履歴

Ver.	年月日	内容	備考
1.0	2017/8/31	初版リリース	
1.1	2017/9/15	認証依頼のレスポンスコード追加	
1.2	2018/9/6	ライセンス機能追加によるレスポンスコード追加	
1.3	2018/12/17	ライセンス機能追加によるレスポンスコード追加	
1.4	2020/1/5	ライセンス機能仕様変更に伴い、レスポンスコード 50-52 削除	

1. 本書の目的	1
2. 前提条件	1
2.1. 迷惑電話対策機能	1
3. 処理フロー	2
3.1. プレコールオート	2
4. インタフェース定義	3
4.1. 共通	3
4.2. 認証依頼	3
4.3. 認証依頼結果通知	5
5. 送受信ライブラリ	6
5.1. 機能説明	6
5.2. 認証コード生成ライブラリ	6
5.3. パラメータ形式	6

1. 本書の目的

本書では、Smart-in と企業サーバ間のプレコール・オートに関するインタフェース仕様を記述いたします。

2. 前提条件

- ① 一つの企業内において、プレコール・オートは、コールバック、プレコールサービスと共存できません。オプション機能となります。
- ② Smart-in が保有する番号において、プレコール・オートは、コールバック・プレコールと同じ番号で使用することはできません。

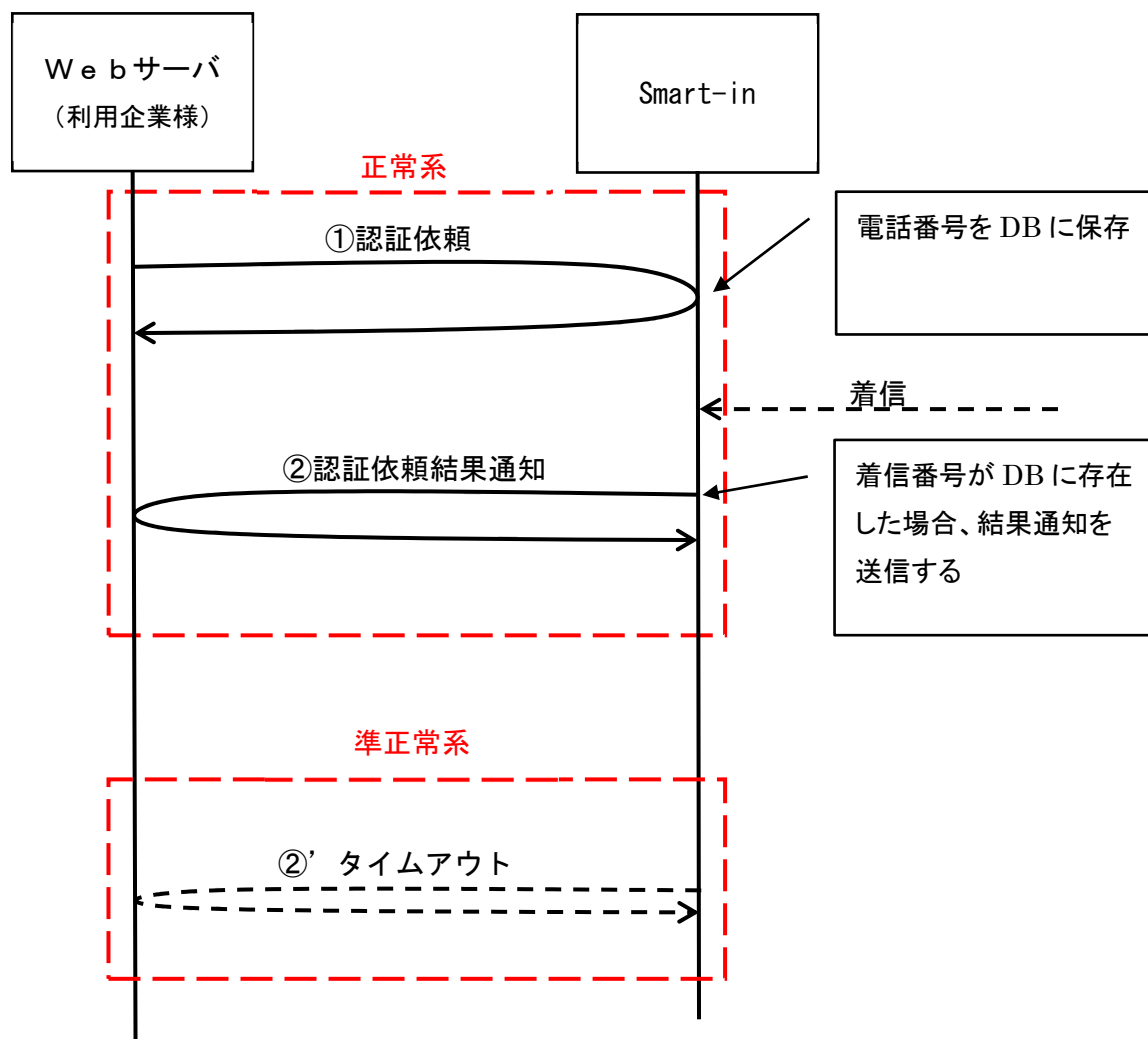
2.1. 迷惑電話対策機能

- ① プレコールオートの認証要求で登録が無い電話番号からの着信は、電話番号と着信日時を DB へログ記録する。
- ② 着信応答し、音声応答する。音声ガイダンスの有無はサーバ側の設定となります。詳細につきましてはシステム構築マニュアル（「項番 5.5.1.1 外部定義ファイルを設定する」の wrongnumber_playback 属性）をご参照ください。音声応答機能はなしのオプション機能となります。
- ③ 記録したログの消去時間は、企業ごとに設定可能です。
- ④ ログデータは、管理 UI から照会可能です。

3. 処理フロー

認証依頼～認証完了までは以下のフローとなります。

3.1. プレコールオート



※ 通信プロトコルはHTTPSを使用します。

4. インタフェース定義

4.1. 共通

- ・ 文字コード : UTF8

4.2. 認証依頼

- ・ リクエスト方向

利用企業様 → Smart-in

- ・ リクエストパス

https://{server}/request_pr.cgi

- ・ リクエストパラメータ

論理名	物理名	必須	説明
企業コード	company	○	企業コード(数値 4 桁)
依頼データ	code	○	プレコールオートの場合、「C60」を指定
接続先電話番号	telno	○	電話番号をハッシュ化した文字列 (半角数字以外の文字を除くこと)
確認結果 POST 用 URL	response_url	○	接続完了通知を受ける (POST) する URL を指定
タイマー(sec)	timer	-	着信待ちタイマー 1sec~600sec 指定なしの場合 60sec

※ telno は、authcode_crypt ライブラリでハッシュ化する。Java ライブラリを使用する場合はライブラリ内でハッシュ化

・レスポンス

※JSON 形式で返します。

論理名	物理名	暗号化	説明
結果	result	○	正常 : 0 / 異常 : 9
トークン	token	○	32 桁の半角英数
リターン詳細	detail	○	異常時の理由 ※ 正常時 Null 11 : 未契約 13 : 依頼データ不正 (Timer 値不正) 14 : 依頼データ不正 (response_url) 15 : 既に認証要求済み番号

レスポンス例 :

```
{ "result": "0", "token": "717b63612d9b423bbef554a544f65a5b", "detail": "" }
```

レスポンスには改行が含まれません。

・レスポンス (異常時)

原因 1 : POST のパラメータが間違っている、もしくは POST パラメータがない場合

間違った例 1、company ではない com=XXXX&response_url=YYYYYY

間違った例 2、response_url ではない company=XXXX&res_url=YYYYY

返却例 1 :

ParseRequest Error

原因 2 : POST パラメータの値が間違っている場合

company=XXXX の XXXX が間違っている場合。

data=YYYYYY の YYYYYY が間違っている場合。

YYYY 部分を復号化したデータが JSON 形式ではない場合。

DecryptRequest Error

4.3. 認証依頼結果通知

- ・ リクエスト方向

利用企業様 ← Smart-in

SSL のバージョンは TLSv1.x を使用します。受信できるよう設定して下さい。

- ・ URL

電話確認依頼にて指定された確認結果 POST 用 URL (response_url)

- ・ メソッド

POST

- ・ リクエストパラメータ

論理名	物理名	説明
トークン	token	ログイン確認依頼のレスポンス内で付与したトークンをセットする。
応答区分	code	依頼区分コードをセットする
リターン詳細	detail	正常時／異常時のコード ※別表「コード一覧表」を参照

- ・ コード一覧表

コード	結果内容	説明および、受け取った場合の処理例
00	正常（規定時間内に接続）	認証完了として処理してください。
03	タイムアウト（応答無し、接続不可）	規定時間内に接続不可（電波が届かないか、電源断）の場合があるので、利用者の端末にその旨を表示し携帯が接続可能状態になってから再度ログインを実施するよう促してください。

- ・ レスポンス

※任意の文字列を含んだ HTTP ヘッダーのステータスコードを 200 で返してください。

5. 送受信ライブラリ

5.1. 機能説明

本ライブラリを使用して Smart-in への依頼またはレスポンスの取得を行います。

5.2. 認証コード生成ライブラリ

以下のファイルを提供いたします。

モジュール名	説明
authcode_crypt	先行発信認証方式で電話番号から認証コードを生成するモジュールです。 ※Windows 版は、authcode_crypt.exe

5.3. パラメータ形式

ファイル名	authcode_crypt [target_string]	
パラメータ	第 1 引数	target_string:エンコードする電話番号
リターン値	エンコードされた文字列	

実行例:

コマンド

```
./authcode_crypt 09012345678
```

実行結果

```
d13230b9a9f9fd81f897b2da29a8b1a197bc20062c1022827f34f1b8a7a60196
```